

ラオス障害者就労支援事業 中間報告添付資料 事業写真

1. 第一回車椅子製造研修 平成23年7月5日～13日



① 開講式：(講師、障害者協会会長、研修生)
前列左から2人目がタイ人車椅子製造専門家、中央は日本人車椅子製図・製造専門家。研修生の障害の種類はポリオ、脊髄損傷、事故による片足切断等。開校式にはラオス障害者協会の会長(後列中央)も列席。



② 製図
車椅子を製造・修理する上で基本となる知識が「車椅子の構造を知る」ことである。皆、真剣に日本人専門家の説明を聞く。研修時間外にも早朝から製図の練習をする姿が見られた。



③ さまざまなタイプの車椅子の説明
パワーポイントを使い、タイ人の専門家が丁寧に教える。彼自身も重度障害者である。ラオスではタイ語も理解されるため研修はタイ語で行われた。コミュニケーションは大変円滑に行われた。



④ 製図
一ミリのずれも許されない車椅子製造過程において、初めての製図の作成に戸惑う研修生もいたが、皆真剣に日本人専門家の指導を受けている。



⑤ 製造

様々な工具を使い、ネジやビスを確認し、製図通り組立の作業を開始。パイプの切断、溶接も行う。
正面は左足が不自由なポリオの青年で床に座り作業を行う。



⑥ 製造

実際に車椅子の組み立て工程に移る。全員が組立作業を経験。写真の研修生は事故で片足を切断、義足である。1週間の研修で試作品の車椅子が3台完成。

2. 研修後 7月～10月 ワークショップにて車椅子修理など



① 修理依頼があった車椅子の状態確認

国立リハビリテーションセンターに保管されている、国際NGOが保持する車椅子バスケット用車椅子の修理依頼があった。リハセンター内の体育館で状態を確認。



② ワークショップにて修理

車椅子バスケット用車椅子をワークショップへ運び、分解・修理を行う。早速の車椅子製造・修理研修が役に立ち、研修生が指導員（写真奥）の指導の下、実際の修理を請け負う。



- ③ ワークショップにて修理
車椅子を分解し、一つ一つのパーツを作成、また修理する。



- ④ ボディ部分を塗装
華やかな色に塗装。車椅子バスケット選手用に。



- ⑤ 体育館で走らせ最終確認
一台一台、修理した車椅子バスケット用車椅子を実際に体育館で走らせてみる。テストラン。確認をし、また再調整する。写真に写っているのは車椅子製造職業訓練指導員。ポリオの青年。片足が不自由の障害当事者である。



- ⑥ 最終調整
実際に車椅子バスケットで使用。障害を持つ選手に車椅子のメンテナンスの方法や修理箇所の説明をする。

3. 第一回ビジネスセミナー開催 平成23年8月6日



① 日本での車椅子研修修了生のプレゼン
日本の大分・太陽の家障害者授産施設に研修に出かけたラオス研修修了生（障害当事者2名）を講師として招いて、日本の障害者の起業や就労の実態について、講義を受ける。日本では多くの企業が障害者を雇用しており、また、障害者自身が起業し、社長になり、更に多くの障害者を雇用し、障害当事者が障害者の就労の支援を行っている「太陽の家」の様子をラオス障害者に話す。



② 当セミナー研修生
若い障害当事者の研修生が真剣に講義に耳を傾ける。いつか、自分もラオスで起業し、社長となり、日本のように障害者の就労支援を自ら行いたいと目を輝かせていた。研修生はビエンチャン市内の障害者職業訓練校の在校生、教員、障害者支援を行っている国際 NGO のラオス人スタッフなど約20名。



③ 大分タキ会長の話

大分タキ（車椅子製造・販売会社）の創業者である上野氏は自らも障害当事者であり、従業員を多数抱える会社の社長として会社を経営。多くの後進を育成した。上野氏の起業への困難と努力の話研修員が真剣になって聞いている。

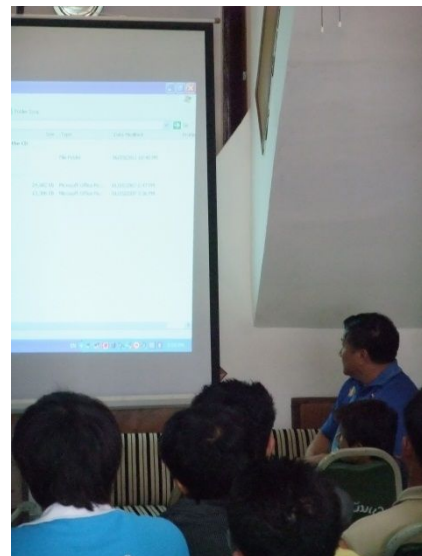


④ 販売方法についての講義

起業のために必要なビジネスのノウハウとして販売戦略がある。セールスのノウハウを教える専門講師（タイ人）を招き、講義を受けるラオス研修生。販売に興味を持つ研修生も多数いた。



⑤ 販売方法について小グループで作業
グループに分かれて販売方法のアイデアを出し合い、発表。



⑥ タイ社会労働省障害者支援課課長の話
障害者の社会自立が社会にどのようなインパクトを与えるか、法制度の話や権利擁護の話について講義を受ける。